



スタンプラリー

動物園怪談画劇

どうぶつえんかいだんがげき



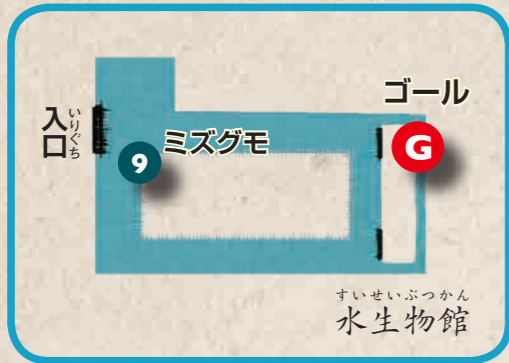
井之頭百物語

参

いのかしらひやくものがたり・さん

Inokashira Park Zoo





*A館とB館の間にあります



動物園 (本園)



動物園怪談画劇 井之頭百物語・参
スタンプラリーのやりかた

園内の 1~9 のポイントをめぐりましょ
う。動物を観察して、クイズをとき、正しい
と思うほうにスタンプを押してください。
9ポイントすべてをまわったら、ゴールのスタ
ンプを押してお土産をもらってください。



この旗が目印

水生物園 (分園)



- 動物園 (本園) S からスタートした場合
→ ゴールは水生物園 (分園) の G ゴール
- 水生物園 (分園) S からスタートした場合
→ ゴールは動物園 (本園) の G ゴール



正門を出て歩道橋をわたった先が
水生物園 (分園) だよ

正門

井の頭自然文化園の200頭近いモルモットの担当になった、新人飼育係のSさんの話。Sさんは、小さい動物については、学校でもあまり勉強してこなかったので、右も左もわからない。でも、一生懸命がんばろうと思っていた。



ある日、先輩飼育係から、「昨日、モルモットの子どもがうまれたから、注意深く観察するんだぞ！」といわれ、繁殖室に急いだが、子どもは見当たらない。何回通っても見つけることができなかった。

「モルモットって、ネズミのなかまなんですよね？ ネズミの赤ちゃんは、毛がはえていない『赤子』でうまれてくるはずなのに、繁殖室にはそんな子は一頭もいないんです。でも、いつの間にか見たことのないモルモットが現れているんです…。なんでなんででしょうか？」 Sさんは不思議そうに首をひねった。



豆知識：モルモットのように、生まれた直後から親について動き回れる子をうむことを、早成性といいます。ハツカネズミのように、巣でじっとしていないといけない子をうむ動物は、晩成性です。人間は、晩成性ですね。

1 モルモット

クイズスタンプ



A



B

ヤクシカを見ていた来園者がつぶやいた…。
「5年前に来たときはオスに角なんか生えてな
かったのに」

この大放飼場に暮らすヤクシカのオスはとても
気性が荒く、いつもメスを追いかけてまわし悪さば
かりしていたという。それが何年も続いたある日、
彼は頭に違和感を感じた。最初は少し突っ張る
くらいであったが、だんだんと頭が重くなり、



ビキッ！ベキッ！という音もし始めた。そして、
だんだん強くなる痛さが体中を駆けめぐり、もが
き苦しむ日々。その痛さで今までの気性の荒さは
消えてしまった。頭がとてつもなく重い…そんな
日々が1年続いたある日、突然、ふっと頭が軽く
なった。そして、目の前には、白くてとがったもの
が2本落ちていた。

やっと平穏な日々が訪れたと思っ
たのもつかの間、また頭に違和感が…。
メスたちにずっと悪さをしてきた彼に
天罰が下ったのだろうか。



豆知識：ニホンジカの角は毎年、春になるとぼろりと取れてしまいます。その後、固くなり皮膚がむけると立派な白い角が現れます。

2 ヤクシカ

クイズスタンプ



A



B

新人飼育係のBくんがテンの担当になったころ、体が黄色、顔が白、手足の先が黒い動物が部屋のすみでいつも寝ていた。

じつはテンは美容好き。夜行性で昼間は部屋で休んでいるが、夜になると活発に動き回り、美容にはげむ。足で顔に泥をぬり、黒い泥パックで美容をするのである。

春になったら「夏までにはきれいにならなきゃ！」とフェイスパックを始めて、夏にはすっかり顔と足が黒く染まった。



ある暑い夏の夜のことで、Bくんは遅くまで仕事をしたあと、帰る前にテンの運動場を覗いてみると、暗闇の中で、ぼんやりと顔と足の先がない黄色い動物が走り回っているのが見えた。

「ぎゃっ」とBくんが驚いて声をあげると、その動物がこうしゃべったという。「わたし、きれい・・・？」



豆知識：キテンと呼ばれるテンは、夏になると顔の毛が黒く生え変わり、冬になると白っぽくなります。

クイズスタンプ

3 テン



A



B

小径に潜むモノ

新人飼育係 Mさんの話である。

ある日の閉園後のこと、あたりが薄暗くなってきた園内を歩いていると、リスの小径の中からカリカリと小さな音が聞こえる。目をこらすもの、なにもいないようだ。

Mさんは中に入って確かめることにした。



小径の中ほどで耳を澄ますが、音は聞こえなくなっていた。あたりはどんどん暗くなってきている。「気のせいかな？」そうつぶやき、不思議に思いつながら出ようとした時である。「ゴリッ」、確かに音が鳴った。注意深くあたりを見回すが、やはり何もいない。そのうちにすっかり日が落ち、小径もいよいよ暗くなってきた。Mさんの背中を嫌な汗が伝った。

「バキッ！」真上で大きな音がしたと思うと、頭に何かが落ちてきた。Mさんは必死にそれを振り払うと事務所へと逃げ帰ったという。

翌朝、同じ場所へ向かうが、クルミの殻が落ちていただけであった。



豆知識：実は、ニホンリスは昼行性。夜は巣箱に戻って寝てしまいます。特に暑い日は早朝や夕方といった涼しい時間帯に活発に動き回ります。

4 ニホンリス

クイズスタンプ



A



B

鳥の母親が求めるもの

夏になると職員の間である話がささやかれる。
「彫刻園の『鳥の母親』という彫像は、夜になると鳥の被り物を脱いで園内を歩き回り、出会った者を石にする。」

30年以上前の話である。吉祥寺に遊びに来ていた七歳の女の子が行方不明になった事件があった。その事件が発生した夜、園内を巡回していた警備員が『鳥の母親』の彫像が建っているはずの場所に『鳥の母親』が着けている被り物だけが落ちていたのを発見したという。翌朝、彫刻館の収蔵庫には見たことがない少女の像が増えていた…。



同じことが数年おきに繰り返され、いつしか「あれは彫像のフリをしている別の何か、夜に園内を歩く者がいると追いかけて石にしてしまおうのだ」といわれるようになったという。

いまでは、収蔵庫の彫像は六つ。七つ目にされぬよう、夜の園内には立ち入らないように…。



豆知識：「鳥の母親・舞踊」の台座には野口雨情の「七つの子」の歌詞が彫られています。

5 彫刻園 屋外展示

クイズスタンプ



A



B

妖怪のひみつ 画報



日本物怪観光

妖怪世界のナビゲーター。凶悪妖怪には秘密道具でたちむかうぞ。

日本に伝わる妖怪には、生き物の不思議な生態からイメージをふくらませて生み出されたものもすくなくない。そんな生き物と妖怪のひみつを大公開。ここにとりあげた生き物は、ここ井の頭自然文化園でも見ることができるぞ！

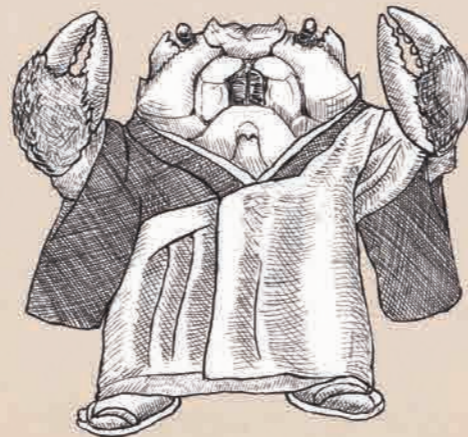


大ハンザキ

ハンザキとはオオサンショウウオのこと。半分に裂いても死なない生き物と考えられていたんだ。岡山県では巨大なハンザキが人をおそったといわれている。

カニ坊主

山梨県ではお坊さんに化けたカニがなぞなぞをだし、答えられなかった人を食べていたが、旅の僧に答えを言いあてられ退治された。お寺のある場所から考えると、化けたのはモクスガニだったのかもしれない。



ヤマドリ

ヤマドリは年を経て、尻尾の節目が十三節に達すると人を化かすようになるぞ。火の玉のような光を灯したり、頭上を回って呪いをかけたりする。その尻尾は魔除けになり、これを用いて作られた矢は、鶴退治にもつかわれたんだ。



鶴

夜に鳴く不吉な鳥のことで、正体はトラツグミではないかといわれている。平家物語には、清涼殿に毎夜鶴のような声で鳴く怪物が現れたと記されている。源頼政が弓で退治したところ、その姿は、頭がサル、体がタヌキ、尻尾がヘビ、脚がトラだったという。

九尾の狐



キツネは人を化かすことで知られている。中でも女性に化けるのを得意としている。尻尾が九本ある九尾の狐は、美女に化け、インドや中国といった国を乱した後、日本にやって来たが、正体がばれ、最後は石になったところを金槌でくだかれてしまった。

*あかい文字の動物は園内にひそんでいるよ。見つけて観察してみよう！



午前零時刊

発行所
武蔵野怪奇新報
井の頭本社

アカゲザル誰も近寄らず

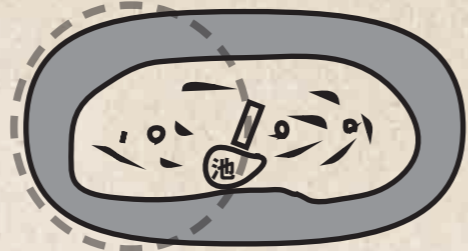
威嚇原因いまだ不明な状況



警戒するアカゲザル
6月23日午後4時10分、現象がはじまった時のサル山の様子
左 サル山に入った飼育係の様子をみているアカゲザル 6月25日午後2時30分

井の頭自然文化園で、不可解な出来事が起こった。サル山内には、池を挟んで2つの山があるが、そのうちのリスの小径側にアカゲザルが近寄らなくなってきている。飼育員によると、この現象は、6月23日午後から始まり、エサを撒いても全く近寄らなかったという。

アカゲザルが飼育されているサル山 --- アカゲザルが近寄らない場所



サル山に入りリスの小径側を丹念に調べる飼育員=6月25日午後2時30分



山頂は、草むらになつており、普段はサルたちの絶好の遊び場である。しかし、アカゲザルたちは、威嚇するだけで、決して近づかなかった。危険なものも潜んでいるかと、飼育員が、2日にわたって徹底的に調査したものの、何も発見できなかった。

その後、この現象は、6月27日まで続いたという。いまだ原因は不明である。動物たちは、人には見えないものが見えるという。サル山にも、何かが潜んでいるのだろうか。

(井の頭自然文化園特派員発)

正門入ってすぐ
こもれび

園内での
お食事は

アジアソウはな子前

はな子
カフェ

アカゲザルはアフガニスタンから中国にかけて生息。ニホンザルに似るが、尾が長く、赤褐色の毛を持つ。半樹上性で、群れで生活する。

大昔、その池にすむサギの仲間にはゴイサギだけ
 だった。静まりかえった池の水辺で、ゴイサギは
 獲物の小魚が近づいてくるのを辛抱強く待ち、
 素早く、一撃でつかまえて食べていた。魚を見つ
 けやすい昼間に狩りをして、夜はぐっすりと休んだ。



ところが、コサギが池に移りすんでくると、
 ゴイサギは落ちついて狩りができなくなった。
 コサギは、池の浅瀬を足でかき回し、驚いて出
 きた小魚を食べるので、水辺の魚がみんな逃げて
 しまったのだ。

仕方なく、ゴイサギはコサギが寝ている夜狩り
 をすることにしたが、昼も夜も起きていたので、
 すんだ青色だった自慢の目が、真っ赤に充血して
 しまったという。

井の頭自然文化園でもゴイサギとコサギが同じ
 ケージでくらしている。赤い目を
 したゴイサギは、コサギと同じ枝に
 止まることはなく、大昔のことを
 今でも覚えていられるのかもしれない。



クイズスタンプ

6 ゴイサギ



A



B

豆知識：怪談と同じように、ゴイサギとコサギは狩りの仕方が違います。コサギの足の指は、魚を追出すのに適した目立つ黄色をしています。

水生動物園には体は緑色なのに「アオバト」と呼ばれる鳥がいる。これは、そんな「アオバト」の体の色の悲しい由来：

昔々、アオバトたちはきれいな青色の羽を誇っていた。ところが、ある日、地味な羽を持つ他のハトたちから、その綺麗さを嫉妬され、襲われてしまった。

アオバトたちの翼は紫色に腫れ、傷口からは黄色い血が流れ出していた。そして、



重い傷に苦しみがくうちに、流れ出た黄色い血が体中に付き、羽の青色と混ざりあい、体中の羽が緑色になってしまった。その後、アオバトたちは、ハトから逃れ、緑あふれる森の奥深くでひっそりと暮らすようになったが、羽の緑色は落ちなくなってしまう。そして、オスの翼だけは、紫色のまま元に戻ることはなかったという。森の中に響き渡る、アオバトたちのもの悲しうな「アオアオア」という鳴き声は、青い羽を奪われた悲しい過去を物語っているのかもしれない。



豆知識：アオバトは漢字で「緑鳩」と書きます。古い言葉で青は緑を指すようで、羽色の緑色から由来しています。青信号も実際は緑色ですが、青と言いますよね。それと同じです。

7 アオバト

クイズスタンプ



A



B

井の頭自然文化園のタンチョウはおこりんぼう。いつもなにかに怒っている。「クワツクワツ！」今日は新人飼育係のBくんがやってきた。

おれのなわばりを荒らしやがって！「クワツ！」なんだかいらいらする。むかむか腹が立つ。腹がたつと鳴きたくなる。大声で鳴いてあいつをおどかしてやれ。「クワァッ!!」

腹がたつとつつきたくなる。あいつを大きなくちばしでつついてやれ。「ガツツガツツ！」さらにかっかして頭に血がのぼる。「クワツ！」血がのぼってどんどん頭が赤くなる。「クワァッ!!」



毎日毎日これを繰り返し、こうしてタンチョウの頭のとっぺんは赤くなった。明日もまたBくんが怒られるだろう・・・「クワッ！」
ああ、怖い怖い・・・



豆知識：タンチョウの赤い頭頂は皮膚がむき出しになっていて、血液の赤い色が皮膚をとおして見えているのです。

8 タンチョウ

クイズスタンプ



A



B

井の頭池には、様々な「モノ」が潜んでいるという。これは、池のほとりの建物での話。

警備員のYさんが水生物館を巡回するときは、魚たちを驚かさないうよう、弱い光で足元を照らすだけにしている。

暑い夏の夜。暗い館内を巡回中、ウグイのタッチプールの方から「ゴボツゴボツ」という音がした。なにかが、水中で泡を出しているかのようである。そっと近づくと、バチャバチャと水の音が！



しかし、近づいても水面は穏やかだった。ただ、廊下には、丸い水跡が、井の頭池側出口に向かってついていたそう。

翌朝、長寿のミスグモが、飼育ケースから脱走していることがわかった。ウグイも3匹少ないそう。

Yさんは、「実は、ウグイのプールを懐中電灯で照らしたとき、毛むくじらの何かがチラッと見えた気がしたんですよ：」そう言っ、うつむいてしまった。



豆知識：ミスグモは、世界で唯一水中生活をするクモ。時々体を乾かしたり、空気を運んだりするために水面に出る以外は、水中ですごします。お腹や足の微毛で空気を抱えこみ、水中に持っていきます。

9 ミズグモ

クイズスタンプ



A



B

ゴールスタンプ



あなたのまわりでも

何か起きていませんか？

古くから続く井の頭という土地。様々な想いが蓄積され、

それが不思議な現象となって現れるのでしよう。

昨年までの分と合わせて、百の物語まであと七十二。

今年のお話は、ここまです。もしかしたら、あなたのま

わりで、もう一つの物語が語られるかもしれません。何か

起きたら、ぜひその物語を教えてください。井之頭百物語の

一つとして、未承く語りつがれていくことのでしよう。

絵・天野行雄（日本物怪観光）

全日本妖怪推進委員会所属。

日本各地の妖怪を造形活動を通じて紹介するアートユニット・日本物怪観光を主催。

観光と物産をテーマに、様々な作品を制作、発表している。著書にあかね書房「妖怪探検図鑑」上・下（文・村上健司）がある。

7月26日から9月13日まで、

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエン

ナール2015」に出品中。



JAPAN MONONOKE TOURIST

ホームページ「日本物怪観光」
www.mononokekanko.com/



動物園怪談画劇 | 井之頭百物語・参 |

発行日：二〇一五年七月一八日

編集発行：井の頭自然文化園

非売品